

脱皮殻上で相次いで羽化したクマゼミ (カメムシ目, セミ科)

Repeated emergence of *Cryptotympana facialis* (Hemiptera, Cicadidae) on the cast-skin

久保田 信

南日本に広分布する我が国最大級のクマゼミ *Cryptotympana facialis* (カメムシ目, セミ科) が, 和歌山県西牟婁郡白浜町に所在する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所構内で, 1 個体だけが他個体の脱皮殻上で羽化していた (久保田, 2012). 今回, 和歌山県田辺市でも同様の現象が多々見られ, そのうちの一例だけであったが, 3 個体間で生じていたので報告する。

2013 年 8 月 19 日, 田辺市新庄公園内で, 枝ぶりよく葉がよく茂ったケヤキ (図 1) の一枚の葉上で, 3 個体が相次いで他個体の脱皮殻上で羽化していたのに気が付いた (図 2)。その位置は地上からだいたい 3 m の高さで, その小枝の先にあった一枚の葉の上でこの現象が生じていた。幼虫がその先への行き場がないため, このような羽化の上に羽化を重ねざるを得なかったのかもしれない。なお, 前報告のような 2 個体間での羽化 (久保田, 2012) は複数例が見られた。



図 1 新庄公園のケヤキ



図 2 クマゼミの脱皮殻

末筆ながら, 樹木の同定をして下さった京都大学フィールド科学教育研究センター紀伊大島実験所の梅本信也博士に深謝致します。

引用文献

久保田 信. 2012. 和歌山県白浜町で脱皮殻上で羽化したクマゼミ (カメムシ目, セミ科). KINOKUNI, (82): 16.

(くぼた しん 〒649-2211 西牟婁郡白浜町臨海459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所)